

宮崎道正 みやまき だてまさ 教育家。嘉永五年十月二十四日越前國生れ、大正五年八月十八日歿（一八五二—一九三六）。舊姓石川、幼名鋒彌、字子慎。大野藩の首進生として大學南校に學び、同室五年餘の杉浦重剛とは爾來最も親交。明治十年開成學校が東京大學となつた第一回卒業生（理學士）。尋いで札幌農學校教授となり、十五年十一月までの在任中、岩崎行親、荻池熊太郎、志賀重昂、齋藤祥二郎、頭本元貞、今外二郎等を教へた。また東京英語學校、東京文學院の創立に盡力。二十八年病を獲て相州片瀨に轉地療養。その後、家塾三樂舎を小石川久堅町に開き、近隣に在つた重剛の梅好塾と相並び、恰と寒山拾得（長谷川芳之助）の仲と評せられた。

著書に『日本農業教育論』（明治二十年五月原亮二郎出版「金港堂叢書」）。『宮崎道正傳』（昭和六年十一月二日回生口壽編輯）がある。